

## ヤスニ計画

9月5～7日の3日間、エクアドルのコレア大統領が来日されましたが、来日目的の一つは、現在同国が国際社会に対して協力を求めている、「ヤスニ計画」への日本政府の参加を要請することでした。

「ヤスニ計画」の前に、まずエクアドルという国について説明しましょう。エクアドルは、南アメリカ大陸の西部に位置する、人口約1400万人の共和制の国です。コロンビアやペルーと国境を接し、西は太平洋に面しています。面積は28万平方キロメートルといえますから、ニュージーランドとイタリアの間位の大きさで、ソウガメで有名なガラパゴス諸島はエクアドルの領土です。

さて、エクアドル東部のアマゾン熱帯林地方のヤスニ国立公園には、1ヘクタール当たり北米全体を合計したよりも多い655種の樹木や150種の両生類、10万種の昆虫など、貴重かつ多様な生物が生息しているといわれ、ユネスコから「世界生態系保護区」に指定されています。同時に、ヤスニ国立公園内には、8億5千万バレルの石油が埋蔵されており、これはエクアドル国内における石油埋蔵量の20%に当たります。

2007年、コレア大統領は、ヤスニ国立公園の地下に埋蔵されている石油の採掘を永久に断念し、その代償として国際社会が、エクアドルが失う収入の約半分、35億ドル分を補償することを呼びかけたのですが、これが「ヤスニ計画」といわれているものです。

この計画の凄いところは、最も貧しい国の一つであり、国の発展を石油資源に頼らざるを得ない中で、石油資源の開発を押さえ、自然との共生を図ろうとしていることです。今や、地球温暖化など、環境問題は深刻、かつ、グローバル化しており、一国だけでは完結できない程の広がりを見せています。こうした中、エクアドルは、自国の利益だけを追求するのではなく、国際的な協力関係を築く中で、地球環境の保全に貢献しようとしています。

こうしたエクアドルの「ヤスニ計画」に対して、既にドイツ政府は8億38

00万ドルの拠出を約束しており、スペイン、フランス、スイス、スウェーデンも拠出を検討しているといわれています。日本政府の方針は良く分かりませんが、COP3（地球温暖化防止京都会議）の議長国であった日本としては、積極的に支援していくことを考えるべきでしょう。

「ヤスニ計画」では、8億5000万バレルの石油の採掘を止めることによって4億7000万トンの二酸化炭素排出を削減しようというのですが、勿論、石油資源国は他にも沢山あり、エクアドルが採掘しない8億5000万バレル相当を他の産油国が採掘していくなら、問題の解決には繋がりません。その意味では、地球的な規模で、化石燃料に頼らない、再生可能なエネルギーの開発と普及に努めるべきであり、環境技術の先進国である日本の役割は、この面でも非常に大きいと思います。（塾頭 吉田 洋一）